

2020年度 第1四半期決算概要

2020年8月7日
デンカ株式会社

(単位:億円)

1. 業績

	2020年度 第1四半期実績 (4-6月)	2019年度 第1四半期実績 (4-6月)	増 減	2020年度 第2四半期予想 (4-9月)	2020年度 通期予想 (4-3月)
売上高	762	909	△ 147	1,600	3,600
営業利益	44	67	△ 23	120	310
経常利益	50	64	△ 14	120	290
親会社株主に帰属する当期純利益	42	50	△ 8	100	210

2. 総括(前年同期比)

- ・当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、3つの成長ビジョン「スペシャリティの融合体」「持続的成長」「健全な成長」を掲げ、2018年度より5か年の経営計画「Denka Value-Up」における2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益性向上に注力いたしました。
- ・当第1四半期は、電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルム、半導体封止材向け熔融シリカフィラーなどの半導体関連製品は、5G関連やデータセンターの世界的な需要拡大で堅調な出荷となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、クロロブレンゴムをはじめ、一部主要製品で低調な出荷となりました。また、原材料価格下落に応じたスチレン系製品の販売価格を改訂したことなどから、売上高は147億円減収の762億円(前年同期比16.1%減)となりました。
- 利益面では、感染症拡大による大幅な需要減の影響を受ける中、スプレッドの改善や本社費・工場固定費の減少もありましたが、営業利益は前年に比べて23億円減益の44億円となりました(同34.8%減)。経常利益は50億円(同21.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は42億円(同16.5%減)と、それぞれ減益となりました。
- ・第2四半期以降、経済情勢は、感染症の再拡大の恐れもあり、先行きの不透明感は依然として残りますが、電子・先端プロダクツやライフィノベーションのスペシャリティ事業を中心に、「Denka Value-Up」の成長戦略を強力に推進し、期初予想の達成を目指します。

3. 参考数値・前提

(単位:億円)

	2020年度 第1四半期実績	2019年度 第1四半期実績	増 減	2020年度 第2四半期予想	2020年度 通期予想
投資	71	53	18	230	470
減価償却費	57	55	2	120	240
研究開発費	38	35	3	80	160
有利子負債残高	1,422	1,158	264	1,420	1,520

	2020年度 第1四半期実績	2019年度 第1四半期実績
為替レート [円/\$]	107.7	110.8
国産ナフサ [円/k]	26,000	45,800

4.セグメント別状況(前年同期比)

- ・エラストマー・機能樹脂部門は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、自動車産業を中心に全般的に生産活動が停滞したことから、クロロプレンゴムの販売数量が昨年を下回り、大幅な減益となりました。
当第2四半期以降は、クロロプレンゴムの需要回復の兆しは一部みられるものの、通期では前年同期比減益の見通しです。
- ・インフラ・ソーシャルソリューション部門は、改定した価格の維持や、コストダウンが寄与しましたが、石灰窒素、アズミンなどのアグリプロダクツや耐火物・鉄鋼用材料の販売数量が昨年を下回ったことなどにより減益となりました。
第2四半期以降も、改定した価格の維持に努めるとともに、更なるコストダウンをはかり、通期では前年比増益を目指します。
- ・電子・先端プロダクツ部門は、金属アルミ基板ヒットプレートなどの自動車産業用製品の需要減少がありましたが、5G関連やデータセンターの世界的な需要拡大で堅調な電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルムや半導体封止材向け溶融シリカファイバー、またxEV関連の球状アルミナの販売が前年を上回ったことなどから増益となりました。
第2四半期以降も、半導体関連やxEV関係の出荷が堅調に推移する見通しであることから、通期では前年比増益の見通しです。
- ・生活・環境プロダクツ部門は、感染症拡大の影響などにより、工業用テープ等の販売数量は昨年を下回りましたが、原材料価格の下落や固定費削減が寄与したことなどにより、増益となりました。
第2四半期以降も、同じような状況が続く見通しであることから、通期では前年比増益の見通しです。
- ・ライフイノベーション部門は、感染症拡大の影響で、コロナ以外の検査件数や健診件数が減少し、検査試薬の販売が昨年を下回った一方、政府の要請を受け、抗インフルエンザウイルス薬「アビガン®」の原料であるマロン酸ジエチルの出荷を行いました。第1四半期の営業利益は、概ね前年並みとなりました。
第2四半期以降も、社会のニーズに応えられるよう安定供給に努めてまいります。
*「アビガン」は富士フイルム富山化学株式会社の登録商標です。

(単位:億円)

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2020年度		増 減	2020年度	
		第1四半期実績	第1四半期実績		第2四半期予想	2020年度 通期予想
エラストマー・ 機能樹脂	売上高	271	394	△ 123	550	1,250
	営業利益	13	38	△ 25	30	75
インフラ・ソーシャル ソリューション	売上高	117	129	△ 12	250	550
	営業利益	2	3	△ 1	10	20
電子・先端 プロダクツ	売上高	156	155	0	330	730
	営業利益	28	26	2	65	135
生活・環境 プロダクツ	売上高	79	88	△ 10	160	330
	営業利益	1	△ 2	3	5	5
ライフ イノベーション	売上高	53	51	1	150	380
	営業利益	0	1	△ 0	10	70
その他 消去差	売上高	87	91	△ 4	160	360
	営業利益	0	2	△ 2	0	5
合 計	売上高	762	909	△ 147	1,600	3,600
	営業利益	44	67	△ 23	120	310

連結売上高増減	売 上 高				
	2020年度	2019年度	増 減	販売価格差	数量差
	第1四半期実績	第1四半期実績			
エラストマー・機能樹脂	271	394	△ 123	△ 55	△ 68
インフラ・ソーシャルソリューション	117	129	△ 12	1	△ 13
電子・先端プロダクツ	156	155	0	△ 1	2
生活・環境プロダクツ	79	88	△ 10	△ 2	△ 8
ライフイノベーション	53	51	1	△ 0	2
その他	87	91	△ 4	-	△ 4
合 計	762	909	△ 147	△ 56	△ 90

連結営業利益増減	営 業 利 益					
	2020年度	2019年度	増 減	販売価格差	数量差	コスト差等
	第1四半期実績	第1四半期実績				
エラストマー・機能樹脂	13	38	△ 25	△ 55	△ 34	63
インフラ・ソーシャルソリューション	2	3	△ 1	1	△ 4	2
電子・先端プロダクツ	28	26	2	△ 1	4	△ 0
生活・環境プロダクツ	1	△ 2	3	△ 2	△ 2	7
ライフイノベーション	0	1	△ 0	△ 0	2	△ 2
その他、消去差	0	2	△ 2	-	△ 0	△ 2
合 計	44	67	△ 23	△ 56	△ 34	67